

はじめに

本県の児童生徒は、全国学力・学習状況調査において平成19年度から3年連続で全国トップクラスという好成績を取めました。この結果は学校教職員・児童生徒の日頃の頑張りはもちろんのこと、それを支える家庭や地域の教育力の高さの表れであることは、分析結果からも明らかになっています。今後も本県の更なる教育の充実のためには「オール秋田」の精神で向かい、各地域において、学校・家庭・地域が連携し、力を結集して本県の子どもたちの「生きる力」を育成していくことが必要です。

本県では地域と一体感のある学校づくりをするため、平成17年度から平成19年度まで、地域の教育力を活用し学校への支援を行うための「ハロースクール運動」と、子どもたちや教職員が地域に貢献するための「ほっとエリア運動」を推進してきました。また、一定期間、誰もが自由に学校を訪問し授業参観などができる「みんなの登校日」では、実施3年目には、約28万人の地域住民が学校を訪れました。これらは一定の成果を上げ、学校と地域との距離が一層縮まる取組となり、今日の学校支援地域本部事業での活動につながるものとなっています。

本県における学校支援地域本部事業は、平成21年度現在、県内の24市町村（特別支援学校を含む）で取り組んでおり、それぞれの地域でバラエティに富んだ新たな教育活動を展開しています。各本部で任命された地域コーディネーターが、活動の充実・推進に大きな役割を果たしています。

本実践事例集は、今年度事業を実施している全ての本部を対象に各教育事務所・出張所の社会教育主事が取材をし、他地区に広く紹介したい活動について執筆したものです。各学校、地域、市町村教育委員会等において、今後の取り組みに役立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、実践事例をご提供くださいました各本部の関係者の皆様、そして本事業の推進にあたり御指導御助言くださいました秋田県学校支援地域本部運営協議会の委員の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

平成22年 2月

秋田県教育委員会

教育長 根岸 均